


教材教具名	ひらがなパーツ	教科（国語）
<p>教材教具</p> <p>ひらがなの太文字の印刷してある紙。（A3くらいの大きさ）とひらがなのパーツを色画用紙を使って切りパウチし、裏に磁石をはったもの。（2セット）</p> <p>ひらがなの太文字の印刷してある紙。とひらがなのパーツを切った色画用紙。（生徒人数分）</p> <p>ペンで書くための練習プリント。（生徒が好きな絵があり絵と絵を線でつないでいくと文字になる。）</p> 		
<p>教材教具の概略（ねらいと使い方） ※ 発達段階や教科上のどの課題で、どのように使ったか等</p>		
<p>1 ねらい</p> <p>ひらがなの形を認識する。</p> <p>2 発達段階など</p> <p>読むことの次段階、書くことの前段階としてどうか。</p> <p>3 使い方</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ホワイトボードに、ひらがなパーツを教師が順にはっていき、「何の文字かな？」と質問しながら、生徒に考えながら見させて、何の文字かわかった時点で答えさせる。</li> <li>2. 何の文字かがわかったら、発音の練習をする。鳥の鳴き声や、音楽などをまじえて、興味を持って発音練習をする。</li> <li>3. ある程度読める（発音できる）ようになったら、ひらがなパーツを生徒が順にはっていき、文字をつくる。教師がはったひらがなパーツは、そのまま見本にはっておき、生徒はひとりひとり、教師の見本を見ながらはっていく。この時、何もないホワイトボードにはっていきのはむずかしいので、紙にひらがなパーツと同じ大きさ太さの文字を印刷しておき、その上にはっていきようにすると、できる生徒も多い。</li> <li>4. 教師が直しながら、何回か同じことを繰り返しできるようになったら、文字を印刷してある紙と文字のパーツの紙を手渡して、紙の上にパーツをのりではっていく。</li> <li>5. 文字を読みながら指でたどったりしながら書く。</li> <li>6. 余裕のある生徒は、ペンを使って、教師と一緒に文字の上からなぞりがきしてもよい。ペンを使う練習をする際に、絵（例えばアンパンマン）と絵を線でつなぐ練習をしながら書くなどできるプリントを使ってもよい。）</li> </ol>		
<p>児童生徒の反応や教材の評価 使ってみての感想・改良発展のアイデア等（次に利用する方のために）</p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホワイトボードにはるためのパウチしたひらがなパーツは、見本用と生徒用に2セットつくる。</li> <li>・ 何もないホワイトボードにひらがなパーツを生徒がはるのはむずかしいので、上からはれるように、文字を印刷した紙をホワイトボードにはっておくとよい。</li> <li>・ ひらがなパーツは、パーツごとに色を変えるとわかりやすい。</li> </ul>		